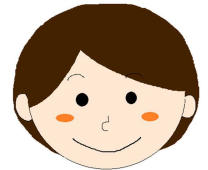


特集！！ハルちゃんが行く！！

林業現場取材 ～栲原町森林組合で働く林業大学校卒業生～

高知県立林業大学校が開校して4年目となり、多くの卒業生が県内の林業現場で活躍しています。林業大学校3期生の村田さんは、今年度から栲原町森林組合で働いています。林業現場で頑張る姿を取材してきました。



ハルちゃん

林業の未来を担う林業大学校卒業生

担い手不足が社会問題として取り沙汰されていますが、林業分野でも例外ではなく、大きな課題となっています。林業は経験と知識が必要で、未経験者がすぐに働けるものではありません。また、多くの林業機械（重機）の操縦には資格が必要で、資格が無いと仕事になりません。

林業大学校基礎課程では1年間のカリキュラムの中で様々な資格を取得できるとともに、林業の基礎的な知識と技術を身につけるので、卒業後は即戦力として働くことができます。

様々な現場で経験を積む

村田さんは元々林業に興味があり、林業大学校（当時は林業学校）に入学したそうです。卒業後すぐに栲原町森林組合に就職してもうすぐ1年が経とうとしています。村田さんの所属している林産班は、木材生産だけでなく、生活圏での支障木の撤去などの特殊伐採も行っています。森林組合から、様々な作業にオールマイティに対応する人材になることを期待されています。

今回取材させていただいたのは特殊伐採の現場で、お寺の大木の先端に引っかかっている折れた枝をクレーンを使って撤去する作業です。栲原町田野々の善福寺の境内にあるこの木は千年杉と呼ばれ、推定樹齢820年、樹高約35mで栲原町指定天然記念物ですが、台風や落雷により枝先が折れてしまいました。

木に登った先輩が折れ枝をクレーンのフックに固定し、村田さんの待機場所までクレーンで吊って運び、地上で村田さんがフックを外します（写真）。折れた枝先は近くで見るとかなり大きくて扱いが難しく、作業には緊張感があります。無事に枯れ枝の撤去作業が終わり、参拝者が安心して訪れることができるようになりました。須崎林業事務所では、森林整備だけでなく、様々な場面で地域に役立つ林業作業員の活躍を、今後も発信していきたいと思います。



↑ 善福寺の「千年杉」
→ 地上で折れ枝を受け取る
卒業生の村田さん

